

つり光

No.138 2017. 7

発行 真言宗豊山派
北田山寶泉寺
所沢市北岩岡130
編集 色摩真了
ホームページアドレス
takaranoizumi.com

だいほんにやてんどくえ 大般若転読会

今年で19回目を迎えました。本堂落慶を記念して翌年から始まった法会で、多聞院様から借用の經典で営まれてましたが、平成13年に經典を新調して自前の經典で厳修されることになりました。經典と桐箱を含めて600万円に近い費用は毎年お願いしている「新盆仏具料」、12年間の積立によってまかなわれ、その寄進者名は巻末に墨書されています。

さてこの大般若經典600巻は京都の宇治市、黄檗宗「万福寺」に遺されている版木から実際に刷られたものです。鉄眼禅師によって完成されたので「鉄眼版」(てつげんばん)と言われていて、江戸時代、禅師は自ら全国を行脚しその資金を得、足掛け17年の年月を要したと言われます。600巻は約500万文字からなり、一字一字が山桜の木に彫り込まれています。後の世になり明朝体活字の元になり、400字詰め原稿用紙の体裁の始まりとなったそうです。

ところで今年は参加者お一人お一人にこの經典を手にしていただき



ハラハラ・ドキドキ、何度か事前練習して法要に備えました



六百巻の一巻目、「大般若波羅蜜多經卷第一」と読める

お寺様方と一緒に転読に臨みました。埼玉県のある地域では經典を持って各、檀信徒の家々を回ってご家族とともに祈願を込める行事が残っていたそうで、こんな例に習って寶泉寺でも取り入れたものです。

facebookに宝泉寺のページを作りました!!



facebook という、共通の趣味や目的を持つ人たちがインターネット上で交流できるホームページのようなものがあり、宝泉寺でも facebook のページを作成しました。境内に咲く花々のちょうど良い時期や、お寺の行事、住職の日常などをまったりとアップして行きたいと思っておりますので興味のおありの方は「北田山宝泉寺」で検索してみてください。

facebook は登録制でパソコンやスマホ、タブレットなどで閲覧可能です。もし、登録の仕方がわからない場合はお気軽にお問い合わせくださいね。

H-1 グランプリ

先日、同じお仲間である真言宗豊山派の栃木仏教青年会の面々が「H-1 グランプリ」というコンクールを開催しました。「H-1」の「H」とは法話の頭文字の「H」をとったもので、要するに法話の一等賞を決めようという企画です。発起人であり優勝者でもある市村師にお話を伺うと「また会いたくなるお坊さんに成りたい」という大きな目的に少しでも近づくための試みだったそうで、具体的には5人のベテラン僧侶と70人の一般の方々が9人の若手僧侶の話の評価、投票するという方式でした。

「法話」に順位をつけることは、これまでタブーとされ、賛否両論のあった「H-1 グランプリ」ですが、新しい仏教ムーブメントの一つの現れなのかなと感じた次第。難しいと思われがちな仏様の教えを少しでも身近に感じてもらうために、これから私たちも様々な工夫をこらさなければと思いを新たにしたのでした。(真了)

お盆合同法要

お盆、以前は「棚経」といって盆棚に向かってお経をお唱えするのが習わしでした。それに替わって寶泉寺では、本堂にてお盆で帰られたご先祖様のための合同法要を行っております。どうぞ軽装でおきがるにおいで下さい。

- **日時** 8月13日(日)
午後3時45分 お盆のお話
午後4時 法要開始
- **会場** 寶泉寺本堂
- **集合** 「るり洞」



※新盆を迎えるご家庭は別便でご案内のとおり午後2時法要開始です。

真多摩新四国88カ所(5)

ちょっとだけ涼しい日をえらんで自転車を走らせました。

- 11) 第87番、**白部山慶性院** (東大和市芋窪) 何かいわれのありそうな地名です。大正時代の末、村山貯水池の計画によって慶性院もこの地に移転されました。庫裏は見るからに当時のもの、良い木材を使っているし頑丈なのでこのまま住み続けていると奥様のお話。多摩湖を貫く堰堤道路の手前交差点そばに(所沢側)、このお寺の元の門が残されています。この門につりあう境内の景観ではなかったかと想像しています。
- 12) 第47番、**稲荷山宝玉院** (所沢市三ヶ島) 所沢と青梅を結ぶ道路上、ちょっと奥まったところウツソウとした木森のなかにひっそりとあります。大般若やお施餓鬼にはいつもお経の音頭をとって頂いているご住職です。近くに「大日堂」と言う名の交差点があります。古くから大日如来のお堂があり明治初年神仏分離令によって廃止されましたが、本尊大日如来は今、宝玉院に祀られています。
- 13) 第66番、**別所山金仙寺** (所沢市三ヶ島) 同じ路線上、中氷川神社の交差点を降りたところ、早稲田大学の敷地とほぼ隣接しています。「シダレ桜」のお寺というと「あああのお寺、知ってる」と今ではかなりの知名度です。大学ができてあたりの景観は一新されましたが、古い道は縦横に配されて、畑と住宅が混在してひなびたたたずまいが残されています。

盆供・施餓鬼会

上記については別紙ご案内の通りです。盆供、お塔婆の申し込みは極力31日(月)から8月9日(水)までの期間中にご持参をお願い致します。どなたとも年に一度ぐらいは顔を合わせる機会と考えていますが、近年は郵送も多くなってきました。どうぞご事情にあわせてお納め願います。

墓地清掃後の花柄や草、剪定枝などはゴミカゴへ、古いお塔婆は大師堂裏の塔婆置き場へお願い致します。ゴミ類は軽トラック荷台へも結構です。

なお、お盆後の竹などを含むお供物類は庫裡北側の所定の場所へお願い致します。市の「クリーンセンター」に処分をお願いしておりますので、その際は可燃、破砕、不燃などご家庭での普段通りの分別をしていただくとうれしく思います。

本堂の再塗装

本堂落慶以来 19 年目を経過し、ここ数年は特に注意深く本堂の経年変化を注視し、再塗装の機会を伺っていましたがその時期が来たようです。大きな損傷を未然に防ぐという意味も含めて決心したところです。計画段階から鉄筋コンクリート造りの建物では再塗装などのメンテナンスは免れることは出来ないことを設計者や施工業者から知らされておりました。そして落慶以来そのことを念頭に置いて費用も積み立てて来ました。時期は秋のお彼岸すぎから年末までにと考えています。詳しくは次号でお伝え致します。

編集後記

- ・梅雨末期におこる豪雨被害が九州におこってしまった。あたりは人工造林による森林資源が豊かな山間の集落だった。耐えきれないほどの雨量で山が丸太とともに崩落、むしろこの丸太が被害を大きくしてしまった。植林がいけないのではと思っていたら、そのような評論をマスコミで見た。無定見な造林もダメらしい。そういえば野菜なども、直播きのほうが強いものがあるのも同じことかなと思っている。
- ・日野原先生が 105 歳で 18 日お亡くなりになった。「巨星おつ」、の感がする。「元氣

に老いる」を実現した方、医師としてはもちろん職を離れても多彩、多才な活動で私たちを元気づけておられた。最期は延命措置を拒み、ご自宅で自然に「生」を閉じられたという。少僧もそんな最期にあこがれている。

- ・「もり、かけ」とヤユされている学園創立問題、深みに入ったまま膠着状態が続いている。与党の答弁は「確認できない」「問題ない」「一点の曇もない」「記憶にない」・・・とそっけない。はては文書の処分となると国民の心証はますます悪くなるばかりだ。

Jul. 20. 2017 (琴)